

次世代 Windows 10 の新機能

山本 隆一郎

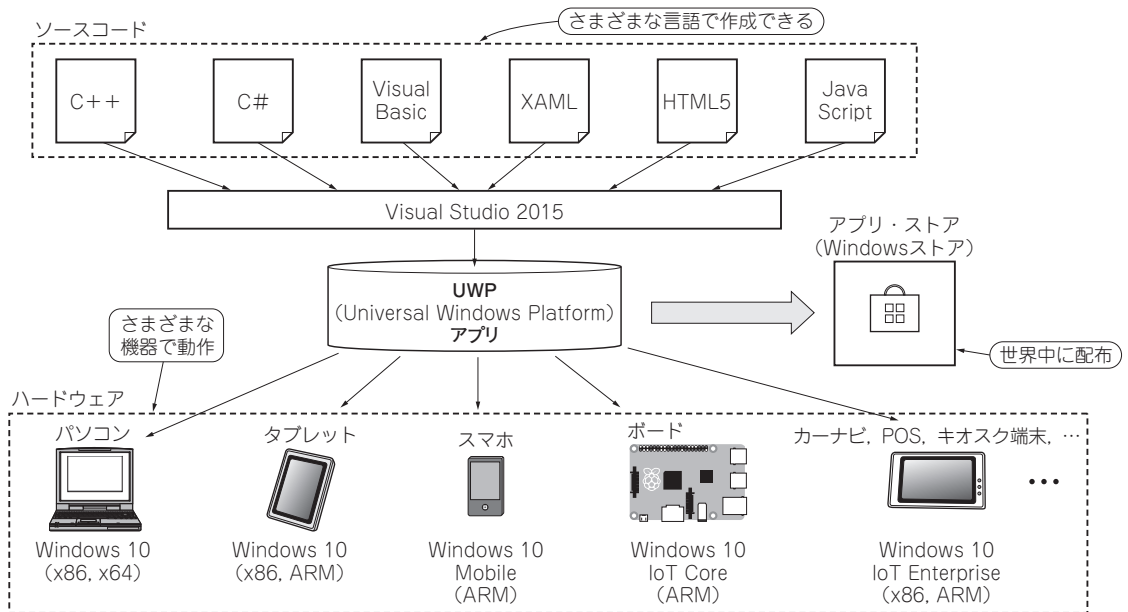


図1 Windows 10はx86でもARMでもすべてのデバイスで使えるアプリ(UWPアプリ)を作れる

第3章では、Windows 10に至る歴史的な経緯と「One Windows」へ統合されるロードマップを説明しました。本章では、Windows 10をもう少し技術的に見ていきます。Windows 10を採用する機器が、これまでと何が異なり、どのようなメリットがあるのか説明します。

Windows 10で導入された新機能やプラットフォームは多々あります。その中でも筆者は以下の点が特徴的なものと考えます。

- UWP (Universal Windows Platform)
- Visual Studio 2015による多様な開発環境と言語
- ユニバーサル Windows ドライバ
- 新しいウェブ・ブラウザEdgeとWebView
- スマートフォンをパソコン代わりにするContinuum for Phone
- 音声認識機能のCortana

直接の機能ではありませんが、以下の要素も

Windows 10を強力にサポートする仕組みです。

- Windows 10対応の無数の安価なハードウェア
- クラウドのWindows AzureとAzure IoT HUB
- クラウド・ストレージのOneDrive
- Project Oxfordの野心的な実験と公開API

ARMでもx86でも動く! Windows 10機器共通UWPアプリ

UWPは、当初ストア・アプリとして、Windows 8でランタイムとして導入されました(図1)。

初期のWindowsの土台(プラットフォーム)はWin32でした。その後、Windows XPからWindows 7世代には、Windows Formsに代表される.Net Frameworkが主流になりました。そして、今後のWindows 10では、UWPに統一されていきます。

UWPアプリは、以下の特徴を持ちます。

- インテル製プロセッサ(x86, x64)でもARMコ